

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0991000043		
法人名	有限会社ワイズプランニング		
事業所名	グループホームこころ黒羽		
所在地	栃木県大田原市大豆田648-4 (電話) 0287-54-3241		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年11月28日	評価確定日	平成20年1月8日

【情報提供票より】(平成19年10月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	19 人	常勤11人(うち兼務11人), 非常勤8人, 常勤換算17.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	・理美容代-実費 ・おむつ代-実費 ・水道光熱費-18,000円 ・共益費-9,000円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(60,000円)	有りの場合償却の有無	有(退所時)
食材料費	朝食	300 円	昼食 550 円
	夕食	550 円	おやつ 円
または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年10月23日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 87 歳	最低	69 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	車田医院、高橋医院、鈴木歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームこころ黒羽は、平成18年6月幼稚園跡地を活用して、黒羽地区でも中心部の商店街、スーパー、ホームセンター、河川公園等環境にも恵まれた地に小規模多機能型居宅介護施設との併設型グループホームとして開設された。職員は理念の中でも「共に感謝の心をもって」という言葉を大切にしており、「共に」(=入居者と職員、あらゆる人間関係の構築)、「感謝の心をもって」(=入居者と一緒でありがとうの心をもって)生活している姿勢がうかがえた。小規模多機能型居宅介護事業所と一体的な運営をしながら、毎食食後に職員ミーティング時間を設けて詳細な情報共有に努めている。また協力医療機関である医院も目の前にあり、支援体制も整っている。役職員の手作りウッドデッキや敷地周辺のハートマークのフェンスなど愛情あふれるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義を理解し、具体的な改善の指針にしている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は運営者、管理者、職員の考え方や意見を発展的にまとめる過程が重要であると考え、それぞれの意見が出せる環境づくりをしている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>入居者、入居者家族、市職員、地域住民の代表に参加してもらっている。入居者家族全ての方に案内を出して参加を呼びかけている。閉じこもりがちな高齢者を外に連れ出す支援の取り組みやお茶会のお誘い等、市役所との情報交換や相談を具体的に行っている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問の際には健康状態や日常の暮らしぶりを伝えている。遠方の家族の方にはEメールで報告し、写真や活動報告を見てもらっている。金銭管理については家族の訪問時に報告し、来られない方には電話で報告している。ホームの相談、苦情等の窓口を重要事項説明書に明記している。家族の意見が反映できるよう運営推進会議の場で多くの意見や情報を交換し、一方的な運営にならないよう努めている。朝のミーティング、昼のミーティング時には家族等からの意見等があったときには報告をし、対応することで終わりにするのではなく、発生要因を探り、課題を検討するなど質の向上に向けた取り組みをしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域活動や行事に積極的に参加し、地域の人達とコミュニケーションを図っている。近所の方が収穫物を届けてくれたり、地域住民として小学校学区内の廃品回収やどぶざらいにも参加している。町内会や育成会に加入しているが、今のところ自治会には入っていないので、地元の声もあり今年中に自治会に加入することを検討している。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に感謝の心をもって」をキーワードにしている。「共に」は入居者、家族、職員、地域住民等あらゆる人間関係を構築することとしている。それぞれの人格を尊重し、常に入居者の立場に立ったサービス提供を基本とし、尊厳、権利を守ることを大切にしたい理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に理念を唱和し、理念に沿った日々のサービス提供（言葉かけ、態度、記録等）ができるよう、管理者、職員間で意識づけ、理念の実践をしている。また、施設長手づくり（オリジナルの絵・言葉）のカレンダーを配布し、事業所の大切にしていることを伝えることに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動や行事に積極的に参加し、地域の人達とコミュニケーションを図っている。近所の方が収穫物を届けてくれたり、地域住民として小学校学区内の廃品回収やどぶざらいにも参加している。町内会や育成会に加入しているが、今のところ自治会には入っていない。	○	地元の声もあり今年中に自治会に加入することを検討している。今後も地域密着型サービスとして地域とつながりながら地域に頼り頼られる双方向の関係をづくりあげていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、具体的な改善の指針にしている。自己評価は運営者、管理者、職員の考え方や意見を発展的にまとめる過程が重要であると考え、それぞれの意見が出せる環境づくりをしている。		

グループホームこころ黒羽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、入居者家族、市職員、地域住民代表に参加してもらっている。入居者家族のすべての方に案内を配布し、参加を呼びかけている。入居者やサービスの実情、取り組み状況等を報告し、時間をかけて話し合い、家族の声も十分に聞いている。議事録は職員も自由に閲覧できるようにして、意見を取り交わしている。毎月お茶会を催しており、1月にも開催する予定である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の担当者を訪ねたり、情報交換や相談をしている。運営やサービスの課題を協議しながら研修等に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問の際には健康状態や日常の暮らしぶりを伝えている。遠方の家族の方にはEメールで報告し、写真や活動報告を見てもらっている。金銭管理については家族の訪問時に報告し、来られない方には電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの相談、苦情等の窓口を重要事項説明書に明記している。家族の意見が反映できるよう運営推進会議の場で多くの意見や情報を交換し、一方的な運営にならないよう努めている。朝のミーティング、昼のミーティング時には家族等からの意見等があったときには報告をし、対応することで終わりにするのではなく、発生要因を探り、課題を検討するなど質の向上に向けた取り組みをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	フロア続きで小規模多機能事業所があり職員はグループホームと兼務し、また、あえて職員の担当制をとらず、全職員が全入居者と関わり、顔馴染みの関係ができるようにして入居者への影響を防ぐ配慮をしている。		

グループホームこころ黒羽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の重要性を認識し、研修にあてる時間は優先的に調整をして参加している。資格取得の希望があれば勤務ローテーションの調整などのバックアップをしている。パート職員もチームの一員として研修を受講している。研修報告を全職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者との交流を積極的に行っており、見学・視察の受け入れもしている。同業者同士で協働しながら質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人とじっくり話をして信頼を寄せてもらうことを第一に考えている。本人の過去の生活環境・状況等を本人や家族から傾聴し、入居者の視点に立ち、十分に時間をかけて入居者が徐々にホームでの生活に馴染み、安心して過ごせるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人それぞれに時代、生活習慣の違いがあることを理解し、個々のペースに合った支援を基本とし、共に感謝しあえる関係を構築できるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを充実させることで日々の変化や希望を十分把握できるよう努めている。入居者の「言葉にしにくい思い」を日々の行動や表情から汲み取るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望を踏まえ、カンファレンス等で職員の意見等も取り入れ、情報の共有を図り、個別対応を優先した支援を心がけた計画を作成している。	○	趣味や得意分野を活かした個人活動を充実することにより入居者主体の暮らしを反映した介護計画にしていくことを目指しているので、把握した本人の思いや意向をより生活に活かせるような支援の充実につなげていくことに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回の定期的見直しをし、状態の変化等があった時には家族と相談しながら随時見直しをしている。また、毎日開催している昼のミーティングでその日の状況、状態を職員間で共有し、適切な支援に活かせるよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者と家族の状況や要望に向き合い介護保険サービスや自主サービスを活かしながら前向きに計画的、かつ、臨機応変に支援できるよう心がけている。		

グループホームこころ黒羽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を把握している。家族を中心に情報を共有し、状態に応じて連携を図りながら適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者、家族の意向、本人にとってどうあったら良いかを家族も含め担当医の意見を参考に事業所としてできることを見極めながら方向性を決めている。	○	事業所として終末期ケアがどの程度可能か模索しており、今後主治医と相談を重ねて事業所での対応を具体化していくを考えているので、本人・家族の安心、という意味でも基本方針を固めていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	相手の立場に立った会話を心がけ、目立たずさりげない言葉かけや、対応に配慮している。個人情報保護法の理解のもと、情報漏洩防止の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、入居者が主体となって希望や、その人らしい生活スタイルを優先できるように努めている。また、併設の小規模多機能と集団で対応になる場合があるものの、入居者一人ひとりの楽しみや刺激にもなって思い思いに過ごされている。		

グループホームこころ黒羽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、職員も入居者と一緒に食卓を囲み、会話しながら同じ物を食べている。食が進まない入居者にはさりげなく声をかけるなど、必要に応じて支援している。食材等も、好みや健康に配慮して、楽しい食事になるよう心がけ、準備や片付け等も楽しみながら一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中と夕方に入浴時間帯を分け、希望によって時間帯を選んでいただいている。個々の体力と体調を検討し、併設の小規模多機能の浴槽も使用したりしている。	○	夜間入浴を希望している方がおり、今までの自宅生活の習慣に合わせられるよう夜勤者と併設の小規模多機能の職員で対応し支援している。入居者の意向を第一にくつろいだ気分で入浴できるよう今後も希望に応じた入浴支援の充実を検討しているので、取り組みの充実に期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴をふまえ、できることに配慮しながら趣味や一人ひとりの力量に合わせた楽しみごとを見出せるよう支援している。	○	入居者の豊かな暮らしを支えるうえで、動物セラピーの導入を検討しているとのことなので、楽しみごとや張り合いの機会づくりという意味でも実現に期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な買い物や散歩のほか、地域の催事があるときには積極的に外出している。リビングから庭園に伸びる広いウッドデッキがあり、季節や気候に応じて自然の景色を見ながら外気に触れることができるようになっている。また近隣の遊歩道を散策したりして、五感刺激の機会となっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に行動できる環境になっている。門扉や玄関も開放しているが夜間は防犯上施錠している。必要場合は入居者の安全確認を30分ごとに行うなどして自由な生活を支えている。		

グループホームこころ黒羽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。いざというときの避難場所として近くのホテルの協力が得られる体制をつくっている。警察、消防署への協力依頼をしたり、半径500m圏内の店舗にも協力を依頼している。災害時における入居者の安全確保のために職員の誘導技術、救助技術のスキルアップに施設全体で取り組んでいる。		
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの体調に合わせた調理、栄養バランスに配慮した献立を1週間ごとに作成し、入居者の状態変化に応じて随時献立や調理方法を変更するなどの配慮もしている。食事摂取量や水分摂取量を個別に記録しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は視覚に負担のかからない明かりの工夫をしたり、テーブルの配置、ソファや椅子等必要に応じて配置している。また入居者と一緒に装飾品を飾ったり五感や季節感を意識的に取り入れる工夫がされており、テレビ、音楽等は慣れ親しんだものや楽しめる内容を優先している。施設長のギター弾き語りで入居者、職員が歌を歌うなど、楽しみという点での工夫もされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物を置き、その人らしい居室づくりがされている。入居者の中にはパソコンを持ち込み、職員が支援しながら家族とのメールのやり取りをする方もいるなど、個々に居心地良く過ごせる工夫がされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。